

もっとアフリカを知り、経済、技術、文化の交流を促進します



月刊アフリカニュース

2026年 3月 16日 No. 161

目次 ([「青色文字」](#)クリックで当該情報にジャンプします。)

- 巻頭言 [「武力に勝る女性の特性？」](#) 編集委員長 福田 米藏・・・2
- 在外公館ニュース (2/16～3/15 公開月報) 編集委員長 福田 米藏・・・3
[ザンビア月報](#) (1月) [ジブチ月報](#) (1月) [セネガル月報](#) (1月) [ブルンジ月報](#) (1月)
[ルワンダ月報](#) (1月) [AU 日本政府代表部月報](#) (2月)
- アフリカニュース 編集委員 柳沢 香枝・・・6
[注目ニュース](#) ((2件) イラン戦争とアフリカ)
[アルジェリアとニジェール](#) [エチオピア](#) [エチオピアとエリトリア](#) [ケニア](#)
[コンゴ\(民\)など](#) [ザンビア](#) [ジンバブエ](#) [ソマリア](#) [ナイジェリア](#) (2件)
[マラウイ](#) [南アフリカ](#) [モザンビーク](#) [モロッコ](#)
[アフリカ大陸全般](#) (5件)
[中国との関係](#) [欧州との関係](#) [国際社会との関係](#) [米国との関係](#)
- お役立ち情報 編集委員 柳沢 香枝・・・15
[「2025年版汚職認識度指数」](#): (Transparency International)
- JICA 海外協力隊員寄稿
[青少年と共に創る「放課後の居場所」](#) ～毛布に包まれた冬と、心が温まる日々～
2024年度2次隊 青少年活動 チュニジア共和国 鈴木 康平・・・16
- アフリカ協会からのご案内 事務局長 生貝 寿夫・・・21
—[協会日誌](#)—

編集・発行： 一般社団法人 アフリカ協会 月刊アフリカニュース編集委員会
編集委員長 福田 米藏

「武力に勝る女性の特性？」

令和8年の弥生も1週間余りが過ぎました。5日から春分の日(20日)までは暦の上で「啓蟄」と呼ばれる季節で、寒い間冬ごもりをしていた虫たちが土の中から這い出してくる頃なのですが、先月末の暖かさがまるで嘘の様に寒さがぶり返した今月初め以降、暖かさと寒さが繰り返してやっています。所謂三寒四温と言われる春先の気温変化が生じているのですが、急な寒暖差は私たちの自律神経を乱れさせ、その上この時期花粉が飛び交っているため、体の不調を訴える人が多くなっているようです。ちなみに報道によりますと、春先の寒さのぶり返しは、「春寒料峭(しゅんかんりょうしゅう)」とも呼ばれるそうで、「春寒(春になってぶり返した寒さ)」が「料(体を撫でる)」「峭(きびしく)」という意味ですので時候の挨拶などにこの表現を使うのも乙かもしれません。

ところで我が家の近所では例年通り見事なミモザが黄色く輝いていますが、この花、3月8日の国際女性デーに感謝を込めて贈られる定番の花だそうです。恥ずかしながら、ジェンダーギャップ指数が世界最低レベル(2025年の世界経済フォーラムの報告で148か国中118位)の我が国の一男性ゆえか、イタリアで3月8日の女性の日に男性が日頃の感謝を込めて妻や母親、同僚にミモザを贈る習慣があり、この慣習が広まったことを知りませんでした。その反省を込めてジェンダーギャップが政治経済面で依然として大きいわが国で、女性の総理大臣が国政を担っており、総理就任以降の支持率も高止まりしているこの瞬間は、どういう意味があるのか考えてみたいと思いました。

わが国の歴史上で活躍した多くの女性の存在を思い起こせば、世界的な男系社会の中で大勢を変えることに億劫であった先人たちが主流であったに過ぎず、意識の奥底では男か女かには拘らない、その瞬間・瞬間において頼みにする者に依存する、というのが案外私たちの先達であった！との考えは間違っているのでしょうか。

さて、東京に春の陽気が訪れていた先月末、世界で「力による支配」を実行しつつあるトランプ大統領が、ベネズエラに続いてイランに対しても行動を起こし、イスラエルと協同してイランを空爆し最高指導者のハメネイ師を殺害しました。イランと米・イスラエルとの戦争状態は女性の日もミモザも関係なく、すぐに治まりそうにないだけでなく石油価格の高騰など経済的な混乱が世界を襲っています。

このような時こそ、叶うことならば女性の特性をもって、世界の各地で威力を示している抗う武力を無力化せんとあきまへんのではないのでしょうか。

ザンビア政治月報 (2026 年 1 月)

1. 中国人民元による鉱業税の支払いを導入

ザンビアはアフリカで初めて、中国・人民元による鉱業税及びロイヤルティの支払いを導入した。関係閣僚及びザンビア中央銀行によると、外貨準備の一部を人民元で保有することで、中国への債務返済コストを効率的にすることが目的。財務・国家計画大臣によると、全鉱業税のうち、15%が人民元で納付され、60%はUSドル、25%はクワチャ建になると見込んでいる模様。

2. 財務・国家計画大臣、2026年の財政展望を語る

財務相は、年初にあたり2026年の財政展望を述べた。政府目標として輸入額の4ヶ月以上をカバーできる健全な国際準備高の維持、マクロ経済目標として経済成長の持続、インフレ率の1桁台回帰(目標6~8%)、財政赤字のGDP比2.1%への縮小を主要目標とした。2026年度予算の総支出は253億クワチャ(GDPの約27%)で、主に国内歳入を中心に、パートナーからの資金援助と、慎重な借り入れと債務持続性回復に重点を置いた慎重な資金調達を実施して対応すると述べた。

3. ザンビア銀行、速やかな新貨幣移行を促す

2025年3月末に導入された新貨幣について、ザンビア銀行は本年4月1日を以て旧貨幣は法定通貨ではなくなり、同日付で新貨幣との交換が不可となることを改めて告知し銀行窓口などを通じて速やかに新貨幣へ移行するよう国民に呼びかけた。

4. 大統領、アフリカ連合(AU)改革委員会へバーチャル参加

29日、ヒチレマ大統領は、オンライン開催されたAU改革委員会へ参加した。会合ではAUが一般アフリカ市民のための組織に変わるべきであり、同時にアフリカ大陸域内貿易の増加が議論された。

<https://www.zm.emb-japan.go.jp/files/100983809.pdf>

ジブチ月例報告 (2026 年 1 月)

1. 中国との経済関係

20日、ゲレ大統領は、ドン・ヤンホン(Dr Dong Yanhong)博士率いる中国国営企業代表団の訪問を受け、パートナーシップ協定について会談を行った。同パートナーシップは、ジブチに再生可能かつ安価なエネルギーを供給することを目的とし、2026年11月に正式に承認される予定。次いで26日、イリヤス経済・財政大臣(産業担当)は、中国グリーン産業コンソーシアム(China Green Industry Consortium)との間で覚書(Letter of Intention)に署名した。

2. 憲法改正関係

5日、ジブチ国民議会は、憲法改正に伴う選挙関連の法律の改正案を採択した。

6日、ゲレ大統領は、新たに3名の憲法評議会議員を任命した。同任命は、憲法評議会の定員を6名から9名に増員する憲法改正によるもの。

3. エチオピアとの関係

11日、アビィ・エチオピア首相がジブチを訪問し、ゲレ大統領との首脳会談のほか、ドラレ多目的港、ジブチ・コンテナターミナル、ホライゾン石油ターミナルを視察した。

4. 仏との軍事協力

24日～27日、仏国防高等研究所(IHEDN)の研修生約150人がジブチを訪問し、シンポジウムが開催されたほか、ジブチ軍及び駐ジブチ仏軍(FFDJ)との間で共同軍事演習が実施された。

<https://www.dj.emb-japan.go.jp/files/100980035.pdf>

在セネガル日本国大使館月報 (2026年1月)

1. 経済社会再建計画

8日、ソンコ首相はIMFの債務再編に応じない方針を再表明し、政府独自の経済社会再建計画に取り組む姿勢を強調。

2. 特別投資・融資計画

21日、ソンコ首相は国の生産基盤を持続的に変革することを目的とした「2026-2028年特別投資・融資計画」を発表。

3. 越境プロジェクト

20日、モーリタニア・マリ・セネガルの3か国の国境地帯で、水資源管理と気候安全保障を目的とした越境プロジェクトが開始。国連平和構築基金が700万ドルを拠出し、UNICEFとIOMが監督する。

4. 国連水会議

14日、アブダビ(UAE)で開催された国連水会議2026準備セッションにファイ大統領が出席し、持続可能性週間の一環として首脳級会議に参加。

26日、ファイ大統領がアブドゥ・ジョフ国際会議センターで、2026年12月アブダビ開催予定の国連水会議準備ハイレベル会合を主催。

<https://www.sn.emb-japan.go.jp/files/100977008.pdf>

ブルンジ月報 (2026年1月)

1. NEPAD 長官の表敬

20日、ンダイシミア大統領はNEPAD長官による表敬を受け、本年2月からブルンジがアフリカ連合(AU)の議長国を務めることを踏まえ、特に若者や平和と安定について意見交換が行われた。

2. コンゴ(民)東部問題

30日、ンダイシミア大統領はコンゴ(民)東部問題に関するAUの仲介者であるトーゴのニヤシンベ大統領及び複数のアフリカ諸国の元大統領と会談。

3. 国庫金の不足

昨年12月末にンディクマナ財務大臣が上院議会で発言し、地方行政に必要な220戸の建物の建築に790億フランを使用し、300億フランが国庫に残っていないところ、70億フランしか残っておらず、建物の建築も完了していないことなどが明らかにされた。

<https://www.rw.emb-japan.go.jp/files/100977407.docx>

ルワンダ月報（2026年1月）

1. コンゴ（民）東部及び大湖地域問題

30日、カガメ大統領は、トーゴのニヤシンベ閣僚評議会議長及びAUが任命した調停者パネル（アフリカの元国家元首等）と会談し、コンゴ（民）東部の安全保障と大湖地域における平和のための調停努力の連携強化について協議。

2. 英国との移民・経済開発パートナーシップ

27日、ルワンダ政府は、英国とルワンダ間の「移民・経済開発パートナーシップ」の終了に関し、2025年11月24日に常設仲裁裁判所に仲裁を申し立てたことを発表。

3. コンゴ（民）の反政府勢力

22日、在米ルワンダ大使館は、同大使が米国下院外交委員会に提出したステートメントを公表。「透明性に基づく信頼を築くため」として、ルワンダがコンゴ（民）の反政府勢力「AFC/M23」と安全保障上の連携を行っていることに言及。

4. エジプトによる皮革産業への投資

レザー・アンド・モア社のヘシャム・ガザール最高経営責任者含むエジプトの投資家がルワンダに皮革製造・加工工場を設立することを計画。

<https://www.rw.emb-japan.go.jp/files/100977398.docx>

AU 日本政府代表部月報（2026年2月）

1. 【タンザニア】150MW太陽光発電所プロジェクトの初期段階完了

タンザニア電力供給公社（TANESCO）は、同国北西部シニャンガ州に建設中の150Mの複合施設の第1段階となる50MW太陽光発電所の建設を完了した。タンザニア最大の太陽光発電所として注目されるこの初期施設は、フランス開発庁（AFD）の支援により4,630万米ドルを投じて建設された。プロジェクトの第2段階では、残りの100MWの容量を追加する予定で、投資額は8,000万米ドルと見込まれている。

2. 【ジンバブエ】アフリカ初となる硫酸リチウム工場を誘致

天然資源に大きく依存するジンバブエは、アフリカ初となる硫酸リチウム工場の操業開始を予定している。中国の華友コバルト社と提携するプロスペクト・リチウム・ジンバブエが管理するこのプロジェクトは、同国をクリーンエネルギー技術の世界的サプライチェーンに組み込むことで、ジンバブエの経済成長を支えるものである。

3. 【アルジェリア】アフリカ初となる重貨物砂漠鉄道がアルジェリアで運行開始

アフリカ初の重貨物砂漠鉄道であるアルジェリア西部鉱業鉄道が運行を開始した。アルジェリアの全国鉄道網が強化されるとともに、同国南西部地域の接続性と経済発展が促進される。全長950キロのこの鉄道のうち、575キロは中国鉄道建設集団とアルジェリア国営企業によって建設され、中国企業がアルジェリアで手掛けた最大のインフラプロジェクトとなっている。

4. 【ナミビア】石油大手ペトロブラスが新たな海洋石油権益取得でアフリカに復帰

ブラジル国営石油大手ペトロブラスは、ナミビア沖の海洋石油探査ブロックの42.5%の権益を取得し、アフリカ復帰を果たす。この動きは、同権益におけるトタルエナジーズ、現地パートナーであるエイト社とナムコール社との提携によるものである。ペトロブラスの2026-2030年事業計画に従い、戦略的にアフリカ市場に焦点を当てている。

<https://www.au-mission.emb-japan.go.jp/files/100990376.pdf>

<注目ニュース： イラン戦争とアフリカ>

1. 「アフリカの反応：米国・イスラエル対イランの戦争で、アフリカは立場を選ぶ」

“Africa picks sides in the US/Israel-Iran War”

The Africa Report、 Sheriff Bojang Jnr、 3月2日

<https://www.theafricareport.com/410557/africa-picks-sides-in-the-us-israel-iran-war/>

イラン戦争勃発後の各国の反応は、様々な要因に基づく。アフリカの角では地政学が重要だ。イスラエルが国家承認をしたソマリランド、湾岸への移民が多いエチオピア、イスラエルや湾岸と安全保障の結びつきが強いケニアなど、一様にイランを非難した。米・イスラエルが勝利するという目算もあるとアナリストは述べる。一方、南アやセネガルは、国連憲章との齟齬を指摘し、暗に米・イスラエル側を批判した。ナイジェリア、ガーナなど西アフリカ諸国は、国名を明示せずに抑制を求めた。アナリストは、イランの抵抗で戦争が長期化し、アフリカは原油価格の上昇と為替下落に直面すると予測する。

2. 「アフリカの角への影響：イラン戦争が勃発した - 紅海及びアフリカの角へのリスク」

“Iran war fallout: risks for the Red Sea and the Horn of Africa”

The Conversation、 Federico Donelli、 3月4日

<https://theconversation.com/iran-war-fallout-risks-for-the-red-sea-and-the-horn-of-africa-277512>

1979年の革命後、イランは紅海とアフリカの角を勢力圏と見るようになり、ハメネイの下、戦略を実行に移した。バブ・アル・マンデブ海峡でサウジとイスラエルに対抗するため、2000年代にはスーダンとエリトリアに海軍寄港地を作り、援助や宗教などのソフトパワーを用いた。しかし制裁で経済力が弱り、米国が核交渉から離脱する中、2015年以降、サウジがアフリカの角で影響力を強めた。一方イランはフーシ派など代理勢力に依存した。ハメネイの死はこの傾向を変えないだろう。問題は武力行使に対する抑制が弱くなったことだ。外部勢力の介入で、アフリカの角地域の紛争の激化が懸念される。

<各国ニュース>

1. 「アルジェリアとニジェール：アルジェリアとニジェールは、二国間の『不正常的な冷却期間』を終了させた」

“L’ Algérie et le Niger mettent « fin à une période anormale de froideur » entre les deux pays”

Le Monde、 2月17日

https://www.lemonde.fr/afrique/article/2026/02/17/1-algerie-et-le-niger-mettent-fin-a-une-periode-anormale-de-froideur-entre-les-deux-pays_6667079_3212.html

2月16日、アルジェリアを訪問したチアニ・ニジェール暫定大統領は、テブン大統領とともに、両国間の緊張の終了とニジェール国内のガスパイプライン第一区画の着工を発表した。ナイジェリアからニジェール、アルジェリア経由で欧州に至るパイプライン

は、昨年初めに当事者間で署名されたが、4月にアルジェリア軍がマリのドローンを撃墜したことで、サヘル諸国同盟との関係が悪化していた。両国は保健、教育、対テロ分野での協力にも合意した。マリはテロ組織へのアルジェリアの関与を疑っており、外務省関係者は、ニジェールは同盟の利益の範囲内に限り、誰とでも関係を結べると述べた。

2. 「エチオピア：情報によれば、エチオピアはスーダンの迅速対応部隊（RSF）の兵士の訓練のため、秘密基地を建設している」

“Ethiopia builds secret camp to train Sudan RSF fighters, sources say”

Reuters、Giulia Paravacini & Reade Levinson、2月10日

<https://www.reuters.com/investigations/ethiopia-builds-secret-camp-train-sudan-rsf-fighters-sources-say-2026-02-10/>

エチオピアはスーダン国境に近い西部のメンガ県で、同国による初のRSFへの直接支援として、RSF兵士のために秘密基地を建設している。政府幹部を含む複数の情報によれば、建設はUAEの資金による。衛星写真によれば工事は昨年10月に始まり、1月初めには4,300人のRSF兵士が訓練を受けた。主な参加者はエチオピア人だが、スーダン人や南スーダン人もいる。基地から53km離れたアソサ空港でも、格納庫やドローン基地の建設が確認された。エチオピア政府やUAE外務省は取材に回答していない。2018年のアビイ首相就任後、UAEは30億ドルの支援を約束し、昨年は軍事協力覚書に調印した。

3. 「エチオピアとエリトリア：エチオピアとエリトリアは戦争目前か？」

“Are Ethiopia and Eritrea about to go to war?”

The Africa Report、2月18日

<https://www.theafricareport.com/409239/are-ethiopia-and-eritrea-about-to-go-to-war/>

1月31日、国連事務総長の報道官はティグライでの緊張の再燃と、戦闘再開の可能性を警告した。2月8日、ゲディオン・エチオピア外相はエチオピア国内にエリトリアが侵攻しているとして即時撤退を求めた。エチオピアはエリトリア領内のアサブ港へのアクセスを存続に関わると主張しており、ティグライ問題は両者の対立の導火線となる。アフリカの角はスーダン内戦及び湾岸諸国の競争にも巻き込まれている。またエリトリアと軍事協力関係にあるエジプトは、スーダン国境にトルコ製ドローンを配備した。国内の安定が必要な両国の全面戦争回避は不可能ではないが、局地的戦闘の可能性はある。

4. 「ケニア：『戦うか死ぬかだ』 - ケニア人は騙されてウクライナ戦争に投入される」

“‘You either fight or die’: Kenyans tricked into joining Russia-Ukraine war”

Al Jazeera、Domic Kirui、2月23日

<https://www.aljazeera.com/features/2026/2/23/you-either-fight-or-die-kenyans-tricked-into-joining-russia-ukraine-war>

ウクライナ外相は昨年11月、アフリカ36か国の若者がロシアによりウクライナ戦争に投入されていると発表した。ケニア国家情報局は2月18日、同国から千名が徴用されたと述べた。内閣筆頭長官は2月10日、27名の帰国を手配したと述べた。その一人は、ロシアのトラック運転手の職に応募したところ、1か月の訓練の後前線に送られ、精神

疾患を装って除隊、帰国した。国家情報局によれば、エージェントと空港のスタッフが若者の出国に共謀している。ロシアにとって必要なのは地上戦に投入できる肉体であり、若者人口が多いアフリカ、特に英語圏でのニーズが高いと専門家は述べる。

5. 「コンゴ（民）など：ザンビアとジンバブエが背を向ける中、コンゴ（民）は米国と12億ドルの保健取引に調印した」

“DR Congo Signs \$1.2bn US Health Deal as Zambia and Zimbabwe Walk Away”

Nile Post、Jacobs Seaman Odongo、2月26日

<https://nilepost.co.ug/health/323482/dr-congo-signs-12bn-us-health-deal-as-zambia-and-zimbabwe-walk-away>

2月26日、コンゴ（民）は米国と2026 - 2031年の保健パートナーシップに調印したと発表した。内訳は米国の援助が9億ドル、コンゴ（民）の国内資金が3億ドルで、HIV/AIDS、結核、マラリア、母子保健、人材育成などを対象とする。この取引は米国が全アフリカに適用する同一のテンプレートに従っている。ウガンダは既に17億ドルで調印したが、ザンビアは保健データの流出や資金継続のための厳格な要件を理由に取引を断った。ジンバブエも、生体サンプルなどを要求されるが、ワクチンや治療を得られる保障がないとして交渉から撤退した。米国の新方針はアフリカの政府を二分している。

6. 「ザンビア：銅ベルト（銅鉱山）ブームの中、ザンビア人はその代償を支払う」

“Zambians pay price amid Copperbelt mining boom”

Deutsche Welle、Kathy Short、2月23日

<https://www.dw.com/en/zambians-pay-price-amid-copperbelt-mining-boom/a-76018569>

世界の産業がクリーンエネルギーに向かい、EVや再エネに必須の銅の需要が高まる中、生産量世界第二位のザンビアの鉱物・鉱山大臣は、2026年に100万トン、2031年に300万トンを生産する計画だと述べた。一方、昨年2月に発生した中国企業による酸の流出と主要河川の汚染は、公害への懸念を強めている。環境活動家は鉱山周辺の重金属による健康影響や、土地収用による農地喪失のリスクを指摘する。ザンビア政府は鉱山開発と環境保全のバランスを模索中だと述べた。しかし労働組合によれば、鉱山労働者は短期契約で賃金も低い。政策担当者は長期の環境影響より短期の経済利益を重視しがちだ。

7. 「ジンバブエ：内閣はムナンガグワ政権の2030年までの延長を承認した」

“Zimbabwe cabinet approves plan to extend Mnangagwa’s rule till 2030”

Al Jazeera、2月10日

<https://www.aljazeera.com/news/2026/2/10/zimbabwe-cabinet-approves-plan-to-extend-mnangagwas-rule-till-2030>

2月10日ジンバブエ内閣は、ムナンガグワ大統領の任期の現行5年（2028年まで）から7年への延長、大統領選出の直接選挙から議会への変更、大統領が指名できる上院議員数の10名の増加を含む憲法改訂法案を承認した。法案は国会に提出される。内閣の声明によれば、改訂は政治の安定と政策の継続性により、開発プログラム完遂を目指すものだ。大統領の「2030年問題」は、与党ZANU-PF内で後継者闘争を引き起こした。与党は下院の2/3、上院の圧倒的多数を占めるが、アナリストや野党は、憲法改訂には国民投

票が必要だが、与党は敗北を知っており、あらゆる手段で阻止すると主張する。

8. 「ソマリア：サウディアラビアとの軍事協定の背景」

“What’ s behind Somalia-Saudi Arabia military deal?”

Deutsche Welle、 Nontokozo Mchunu、 2月16日

<https://www.dw.com/en/whats-behind-somalia-saudi-arabia-military-deal/a-75954838>

2月16日、フィキ・ソマリア外相は、サウジのハリッド・ビン・サルマン王子と防衛・軍事協力に関する覚書に調印したと X で発表した。アナリストは、この協定はサウジのソマリアへの影響力とアデン湾へのアクセスを高めると述べた。ソマリアは、イスラエルによるソマリランドの国家承認を UAE が促進したと非難し、1月に港湾運営や防衛軍事に関する UAE との協定を破棄した。サウジとの協定は、イスラエル及びその同盟者と目される国に対するチェスゲームだとアナリストは指摘する。ソマリア軍の訓練や装備の改善は、長年の治安悪化やテロリストに対抗する能力を高めると期待する声もある。

9. 「ナイジェリア：石油部門が危機を脱した理由を理解するための五つのポイント」

“5 questions to understand why the Nigerian oil sector has turned a corner”

The Africa Report、 Femi Asu、 2月9日

<https://www.theafricareport.com/407684/5-questions-to-understand-why-the-nigerian-oil-sector-has-turned-a-corner/>

ナイジェリアの石油部門は、低投資と窃盗などで長年低迷していたが、昨年以降、メジャーが次々に新規事業を発表し、転機が訪れた。その理由の第一は石油産業法が4年半前に署名され、投資家の信頼を回復したことだ。第二は、コスト削減や投資促進のための大統領令で経済合理性が確保されたことだ。また石油由来でないガス開発も促進されている。第三はアフリカ輸銀などの資金で現地企業が浅海・オンショア開発に乗り出したことだ。第四は、警備の強化による治安の改善で、現地企業の情報提供も貢献している。第五は、石油資源局の上流石油規制公社への再編による、規制の安定性の強化だ。

10. 「ナイジェリア：『手を携えて』 - ナイジェリアはいかにトランプの脅威を軍事パートナーシップに転換したか」

“ Holding hands’ : How Nigeria turned Trump’ s threats to military partnership”

Al Jazeera、 Sumayya Ismail、 2月19日

<https://www.aljazeera.com/news/2026/2/19/from-us-threats-to-holding-hands-did-nigeria-disarm-trump-on-security>

昨年10月、トランプ政権はナイジェリアがキリスト教徒を迫害しているとして、「特別に憂慮する国」リストに入れたが、12月25日には「ナイジェリア政府の要請」により米軍が北部を攻撃した。2月16日には、100名の米軍関係者が技術支援と情報共有のために到着した。両国間の合意の経緯は不明だが、リスク管理企業によれば、ナイジェリアはワシントンのロビー企業に900万ドルを支払った。福音派の支持を得るトランプにとって、キリスト教徒保護は資源への野心を覆うのに好都合だ。ベネズエラのマドゥロの拉致も、ティヌブ大統領の心を動かしたと見られる。しかし対テロ作戦は対症療法に過ぎず、反西側を掲げるISやJNIMの攻撃で不安定さが増すと懸念する専門家もいる。

11. 「マラウイ：透明性に対する懸念の中、米国と戦略重要鉱物で合意する」

“Malawi seals US strategic minerals agreement amid transparency concerns”

Africa Business Insight、2月20日

<https://africabusinessinsight.com/malawi-seals-us-strategic-minerals-agree/>

ケープタウンで開催された2026年鉱物インダバで、マラウイはカシヤでルチルとグラファイトを開発する豪州の上場企業ソブリン・メタル、及び米国に本社を置く商社トラクシーと覚書に調印した。カシヤは世界最大級のルチルと大規模なグラファイト埋蔵量を誇る。ルチルは酸化チタンの、グラファイトはリチウム電池の生産に必須だ。マラウイ政府は画期的な合意だとするが、市民社会は合意の透明性の欠如を批判する。ソブリン・メタルにとってトラクシーとの提携は財務の健全性を増す。マラウイにとってはインフラ開発や雇用・輸出促進の機会だが、長期のリターンにはガバナンスが課題だ。

12. 「南アフリカ：米国の関税に痛めつけられる中、南アは新しい市場を求める」

“South Africa hunts for new markets as US tariffs bite”

Deutsche Welle、Adwoa Tenkoramaa Domanena、2月17日

<https://www.dw.com/en/south-africa-hunts-for-new-markets-as-us-tariffs-bite/a-75991451>

昨年来米国市場が不安定化し信頼性が失われる中、南アは代替市場の開拓を迫られている。しかし過去15年間の数値では、米中は元々比較にならない。中国は南アにとって主要な輸出先であり、2月7日には経済パートナーシップに関する包括合意も署名された。南ア政府も中国シフトを歓迎している。一方、南ア・米国間の貿易は双方にとって比重が小さかった。但し中国向け輸出は鉱物や原材料、輸入は工業製品で貿易赤字が続く。米国向け輸出の主力は自動車や部品で、中国での需要はない。専門家は、南アは米国成長機会法（AGOA）を脱退すべきでなく、また域内貿易も強化すべきだと述べる。

13. 「モザンビーク：液化天然ガス（LNG）の再開：治安と秘密のリスクを抱える機会」

“Mozambique’s LNG renewal: opportunity amid security and secrecy risks”

Institute for Security Studies、Borges Nhamirre、3月2日

<https://issafrica.org/iss-today/mozambique-s-lng-renewal-opportunity-amid-security-and-secrecy-risks>

トタルエナジーによる200億ドルのカーボ・デルガード州のLNGプロジェクトが、約5年の中断を経て再開された。1月の式典でシャゴ大統領は、プロジェクトは国と地域の経済に貢献すると述べた。サイトはルワンダ軍や民間軍事会社などに厳重に警備され、攻撃されるリスクは少ない。モザンビークは30年間のプロジェクト期間に1千億ドルの歳入を得ると予測されるが、警備費用は考慮されていない。トタルは中断で45億ドルのコストが生じ、これを回復するまで税金は支払わないとしている。再開に関する合意内容も不透明だ。建設が堅い警備の下に行われれば、地域社会の裨益も少なくなる。

14. 「モロッコ：西サハラの自治に関するモロッコの『不可逆な青写真』が漏洩した」

“Leaked: Morocco’s ‘irreversible blueprint’ for Western Sahara agronomy”

The Africa Report、Jassin Ahdani & Olivier Marbot、2月14日

<https://www.theafricareport.com/408784/leaked-moroccos-irreversible-blueprint-for-western-sahara-autonomy/>

2月8、9日にマドリードの米国大使館でモロッコ、アルジェリア、モーリタニア、ポリサリオ戦線が協議した、モロッコの西サハラ自治計画の要約と見られる文書をスペインのメディアが報じた。計画は都市計画、経済、教育、保健などを地方政府が担い、外交、軍事など国家主権に関するものはモロッコ政府に残るという標準的なものだ。またポリサリオ戦線が管理するキャンプからの帰還も含まれている。ポリサリオ戦線は行政の長を国王が任命する案に、またアルジェリアは西サハラでの投資を地方と中央政府が二重に管理する案に反対している。憲法改訂に関する国民投票は、西サハラだけでなくモロッコ全土で行われる計画だ。米国は進捗を急いでおり、次期会合は5月の予定だ。

<アフリカ大陸全般に関するニュース>

1. 「アフリカ開発銀行：トランプは資金を断ったが、それでもアフリカ開銀は記録的な 110 億ドルを調達した」

“Trum cut the cash. The African Development Bank raised a record \$11bun anyway”
The Africa Report、Thais Brouck、2月7日

<https://www.theafricareport.com/408087/trump-cut-the-cash-the-african-development-bank-raised-a-record-11bn-anyway/>

アフリカ開銀 (AfDB) の譲許部門であるアフリカ開発基金 (ADF) の第 16 回 (2022 年) 増資では、米国バイデン政権が全体の 6%相当の 5.5 億ドルを出資した。しかしトランプ政権は、アメリカ・ファースト政策に合致する場合にのみ、第 17 回増資 (2025 年～) に 2 億ドルを出資するとしている。それでもターAfDB 総裁は 12 月に、増資額が過去最大の 11 億ドルに達したと発表した。大幅に増額したのはドイツと英国で、日本、イタリア、中国などが続く。また史上初めて、アフリカ 24 か国が総額 1.83 億ドル (全体の 2%) を出資した。この新しい流れに加え、ADF は信用格付けの確定と株主国の議会承認を前提に、市場から 20 億ドルを直接調達できるようになった。

2. 「アフリカ連合：水の持続性、債務削減・・・第 39 回アフリカ連合 (AU) サミットの五つの要点」

“Water sustainability, debt concessions… five takeaways from the 39th AU summit”

The Cable、Claire Mom、2月17日

<https://www.thecable.ng/water-sustainability-debt-concessions-five-takeaways-from-the-39th-au-summit/>

2月14、15日に開催された第39回AUサミットの要点は、1) 「水利用の持続性と安全な衛生システム」をテーマに掲げたが、議論は大陸内の平和と安全保障に集中した。2) メローニ・イタリア首相は開会式で脆弱国の債務削減を発表し、アフリカの人々が移住せずに自国に留まり、国の発展に貢献する自由が必要だと述べた。3) グテーレス国連事務総長は、気候変動への適応のための資金拡大を訴えた。4) 首脳らは、強靱な保健システム構築の必要性にも合意した。5) AU 改革に関しては、意思決定の遅れ、限定的な執行などが阻害要因になって、政策が具体的な行動に移されないと指摘された。

3. 「西アフリカ共同体：サヘル国家がない西アフリカ諸国経済共同体 (ECOWAS) - 分裂によって試される自由な移動と正統性」

“Ecowas without the Sahel states: how the split is testing free movement and regional legitimacy”

The Conversation、 Amanda Bisong 他、 2月18日

<https://theconversation.com/ecowas-without-the-sahel-states-how-the-split-is-testing-free-movement-and-regional-legitimacy-274501>

サヘル諸国の ECOWAS 脱退の影響はまだ定かではないが、域内の移住と自由な移動には確実に影響している。ECOWAS 側は、脱退後もサヘル諸国の ECOWAS ロゴ入りの ID やパスポートは有効だとした。しかしブルキナファソは昨年 12 月にサヘル諸国同盟独自の生体認証 ID を開始した。一方、出国前の移民抑制と援助を抱き合わせる EU 案に応じる国がある中、ニジェールはこれを廃止した。サヘル諸国の脱退は、違憲な政権交代に対する ECOWAS の対応の遅れや一貫性のなさを露呈した。人々の移動は経済的必要性に基づくものだが、ECOWAS の組織的な弱さは移動コストを増加させ、正統性の危機を招く。

4. 「アフリカの軍備：アフリカの軍は常に輸入した武器に依存してきた - 国産の武器への転換が起こっているのはなぜか」

“Africa’ s militaries have always relied on imported weapons; why a shift to homegrown defence is now under way”

The Conversation、 Nate Allen & Joel Amegboh、 2月24日

<https://theconversation.com/africas-militaries-have-always-relied-on-imported-weapons-why-a-shift-to-homegrown-defence-is-now-under-way-274802>

アフリカの軍は全ての装備を、中、露、米、トルコ、仏など国外の市場に依存してきた。しかし維持管理能力の不足により輸入武器はすぐに破損し、武装は軽微だが機動力のある反政府勢力に対して劣勢だった。昨年 8 月、ナイジェリア国防相はアフリカ 37 か国の同僚に軍備の現地化を訴えた。同国は既にサイバー戦争運用能力を持ち、小型武器やドローンの製造も初めている。現在ドローンの製造国は 9 か国、衛星打ち上げ国は 21 か国に及ぶ。イラン、インド、米国などの企業からの技術移転や共同生産を行う国もある。軍備の現地化には、組織能力、規制枠組、人材の強化を並行して進める必要がある。

5. 「サヘル諸国：米国の鉱物外交はサヘル諸国のパートナー選択を試す」

“US minerals diplomacy tests Sahel countries’ partnership choices”

Institute for Security Studies、 Djiby Sow、 2月25日

<https://issafrica.org/iss-today/us-minerals-diplomacy-tests-sahel-countries-partnership-choices>

2月9日、米国政府高官がマリを訪問し、昨年来の「鉱物のための安全保障」に基づき、同国の主権を尊重し、過去の政策の過ちを正すと述べた。同様のメッセージがニジェールにも送られた。マリは 2026 年にアフリカ第二のリチウム生産国になると予測され、ニジェールのウラン生産量は世界の 5% を占める。ただ、過去 20 年間、米国は 33 億ドルの軍事援助を行ったがサヘルは安定しなかった。USAID 等の解体により、経済援助のツールも失われている。一方マリのリチウムは中国企業にコントロールされ、ニジェ

ールはウラン鉱山の国有化を進めている。サヘル諸国は変動する地政学のただ中にあるが、ベネズエラなどの主権が尊重されていないことも忘れてはならない。

<国際関係に関するニュース>

1. 「中国との関係：米国がアフリカ成長機会法（AGOA）を延長した後、中国は遂にアフリカ 53 か国との無関税輸入に合意した」

“After U.S. extends AGOA, China finally agrees zero-tariff access for 53 African nations”

Business Insider Africa、Olamiekan Okebiorun、2月14日

<https://africa.businessinsider.com/local/markets/after-us-extends-agoa-china-finally-agrees-zero-tariff-access-for-53-african-nations/zfkdvjrj>

中国は5月1日から、外交関係がないエスワティニを除くアフリカ53か国の全ての輸入品を無関税にすると決定した。これまでは後発開発途上国33か国が対象だった。これはラマポーザ・南ア大統領やムセベニ・ウガンダ大統領などの指導者による交渉の結果だ。2025年の1月から8月の間の中ア貿易額は前年比15%増の2,250億ドルに達したが、原材料の輸出と工業製品の輸入という構造のため、アフリカ側が595億ドルの赤字となった。中国はアフリカの輸出促進のため14億ドルの関税収入を放棄するとし、欧米と差別化を図っている。しかし非関税障壁は残るとアナリストは警告する。

2. 「欧州との関係：アフリカの突出する若者人口は、欧州の軍の人材不足を補えるか？」

“Could Africa’s youth bulge help fill Europe’s military ranks?”

Institute of Security Studies、Jakkie Cilliers、2月17日

<https://issafrica.org/iss-today/could-africa-s-youth-bulge-help-fill-europe-s-military-ranks>

ウクライナ戦争でのアフリカの若者の徴用が指摘されているが、労働市場の観点からは、軍の徴兵は移民の需給関係と似ている。昨年10月、オーストラリアは自国軍の10%に当たる1万人の枠をパプアニューギニア（PNG）に開放すると発表した。豪州はPNGの若者を中国への防衛に充て、PNGは若者の雇用問題を解決できる。一昨年ケニアはドイツとの間で、職業訓練を含む短期移民協定に合意した。向こう25年で欧州の労働人口は2,400万人減少、サブサハラ・アフリカは5.41億人増加すると推定される。欧州が自国の防衛のためにアフリカ主要国と部隊の訓練や装備の強化に合意し、各国が順番に参加すれば、アフリカの防衛力も高まり、米中との交渉力も強化されるのではないか？

3. 「国際社会との関係：2026年鉱物インダバ - グローバルな競争の中でアフリカの鉱業の機会を浮き彫りにした」

“Mining Indaba 2026: Event highlights Africa’s mining opportunity amid global competition”

Mining Focus Africa、David Christianson、2月23日

<https://miningfocusafrica.com/2026/02/23/mining-indaba-2026-event-highlights-africas-mining-opportunity-amid-global-competition/>

2月9～12日の間、南アのケープタウンで2026年鉱物インダバが開催された。会議には過去最大の12,000人が参加したが、特に米国貿易開発庁、国際開発金融公社など米国の技術専門家の出席が目立った。直前にはワシントンで第1回重要鉱物閣僚会議が開かれ、アフリカ9か国を含む55か国が参加した。その後米国は、供給中断を防ぐため重要鉱物を貯蔵する12億ドルの「プロジェクト Vault」を発表した。会議に南アは招待されなかったが、同国の投資環境の悪さが理由と思われる。インダバではアフリカが生産国での加工の促進を主張したが、深くは吟味されなかった。重要鉱物へのグローバルな需要と地政学的競争が高まる中、アフリカには前例のない選択肢がある。

4. 「米国との関係：トランプ関税はアフリカ成長機会法（AGOA）の無関税の約束を骨抜きにする - 我々のモデルが実態を示す」

“Trump’s tariffs have gutted Agoa’s duty-free promise: our model shows how”

The Conversation、Tim Vogel & Zoryana Olekseyuk、3月1日

<https://theconversation.com/trumps-tariffs-have-gutted-agoas-duty-free-promise-our-model-shows-how-276641>

2月に1年延長されたAGOAは、全WTO加盟国向け最恵国待遇標準関税率3.3%（2017年平均）を免除するものだが、追加関税は上乘せされる。シミュレーションによれば、昨年11月時点でアフリカの対米輸出の関税率は平均9.2%上昇した。輸出は34%減少し、AGOAに依存する繊維輸出国への影響は大だった。しかし全世界向け輸出の減は1.1%のみだ。実は「解放の日」以前から、アフリカの主要輸出先は中国やEUだった。AGOAの原産国証明はコスト高で、更新や適格性も予測不可能だった。中国の無関税対象国は拡大し、EUの一般最恵国待遇や戦略的連携も、貿易の安定性を高めるものだ。

「2025年版汚職認識度指数」

“Corruption Perceptions Index 2025”

Transparency International、2026年2月

<https://www.transparency.org/en/cpi/2025>

国際 NGO であるトランスペアレンシー・インターナショナルが毎年発表している報告書。182 か国について、13 の指標を用い汚職の認識度を、100 点（非常に清廉）から 0 点（高度に腐敗）の間で点数づけしている。2025 年版の主な論点は以下のとおり。

- 全対象国の平均点が、過去 10 数年で初めて下落し、42 点となった。122 か国が 50 点以下で汚職をコントロールできていない。さらに、80 点以上の国が 10 年前の 12 か国から 5 か国にまで減少した。懸念されるのは、米国、カナダ、英国、フランスなど民主国家での点数の下落だ。
- 2/3 の国が 2012 年当時から顕著に点数を落としており、これと並行して表現や集会の自由の制限、NGO の活動への政治的介入が強まっている。
- 一方では Z 世代の若者による抗議行動が世界各地で見られ、ネパールやマダガスカルでは政権交代につながった。抗議参加者を結びつけているのは、政権担当者が権力を濫用し、国民に必要なサービスを提供していないという不満だ。
- 大国が国境を超えて汚職の影響を及ぼす例もある。ロシアは情報工作で他国の選挙に介入した。米国が海外汚職実践法の執行を弱めたことは、贈賄などが可能だというメッセージを送る。米国による援助削減は、世界各地の市民社会団体の活動を低下させている。
- 提言は、1) 独立して透明性のある司法の確保、2) 汚職被害者の司法へのアクセス確保、3) 政治的意思決定がもたらす不公正な影響への対応、4) 市民の活動スペース確保と汚職事案報告の促進、5) 公共サービスと公共財政の透明性と監視の促進、6) 大規模な汚職や違法な資金の流れの予防、検知、処罰。
- サブサハラ・アフリカ 49 か国の平均は 32 点で、全世界最低。公的資金管理における汚職は指導者の清廉さの不足の現れで、国民の必須サービスへのアクセスを悪化させる。アンゴラは 2015 年から 17 点上げたが、それでもスコアは低い。モザンビークは過去 10 年で点数を 10 点落とした。

許容範囲とされる 50 点以上を獲得したアフリカの国

国名	点数	順位
セーシェル	68	24
カーボベルデ	62	35
ボツワナ	58	41
ルワンダ	58	41

（1 位はデンマーク（89 点）、日本は 18 位（71 点）

青少年と共に創る「放課後の居場所」
-毛布に包まれた冬と、心が温まる日々-

隊 次：2024 年度 2 次隊
派遣国：チュニジア共和国
派遣先：ハマメット青少年の家
職 種：青少年活動
氏 名：鈴木 康平

はじめに

初めまして。JICA 海外協力隊 2024 年度 2 次隊でチュニジアに派遣されている鈴木康平と申します。2024 年 12 月に初めてアフリカ大陸に足を踏み入れてから、すでに 1 年 3 ヶ月が経過しました。チュニジアには四季があり、夏は強い日差しが襲います。そして、現在の季節は冬。渡航前の「アフリカ大陸だから暖かい」という予想を裏切り、毎晩冷え込む室内で毛布に包まりながら生活しています。

さてそんな私は、配属先である「ハマメット青少年の家」で職種「青少年活動」として活動しています。活動も折り返しとなりましたが、ここでは、任地での生活や活動を振り返り、青少年と関わっていく中で感じたことや体験したことについてお伝えできれば幸いです。



ローマ時代の円形闘技場 (El Jem)

1. チュニジアについて

チュニジアは北アフリカの地中海沿岸に位置し、面積は日本の 5 分の 2 ほど。人口は約 1,200 万人で、首都チュニスをはじめ、スファックスやスースなどの都市部には、多様なバックグラウンドを持つ人々が暮らしています。アラブ諸国の一つでありながら、ヨーロッパやアフリカの影響も受けており、その多様性は建物や人々の暮らしに表れています。

私が暮らしている地域でも、日常生活ではアラビア語チュニジア方言が使われつつ、フランス語も広く通じています。市場やバス停ではチュニジア・アラビア語、行政手続きや書類はフランス語、観光地では英語も混じるなど、状況に応じて言語が切り替わる光景はとても印象的です。学校教育でもフランス語・英語を学び、高校からは理系科目の授業がフランス語で行われるため、多言語が生活の中に自然に溶け込んでいます。



自作したクスクス

カフェ文化もとても根強く、私の住む町では昼夜を問わず、人々がコーヒーやミントティーを片手にゆったり談笑しています。また、食文化に触れるのも、ここでの生活の楽しみの一つです。クスクスやブリックといった定番料理に加え、唐辛子ペーストのハリッサをさまざまな料理に添える習慣は、チュニジアならではの感覚です。

2. チュニジアの人々

私がチュニジアでの1年間を通して強く感じたのは、友人や家族とのつながりをとても大切にしている国だということです。

友人の家に遊びに行くと、毎回のように「ご飯を食べていきなさい」「泊まっていきなさい」と温かく迎えてくれます。特にラマダンの時期には、友人宅から夕食に招待してもらったり、お裾分けをいただいたりと、日本ではあまり経験したことのない人の温かさに触れました。また、特に印象的だったのが家族の強い絆です。チュニジアでは、多くの家族が同じ建物内、あるいは近所に住んでいる光景を目にします。さらに、親が将来の子どもたちのために家を増築している場面もよく見かけます。子どもたちも親をととても大切にしており、思春期の年代でも親の悪口を言う姿はほとんど見たことがありません。日本よりも「親を大切にすることが当たり前」という価値観が強く根付いていると感じました。

次に、チュニジアの人々が抱く日本への印象ですが、好意的なものが多いと感じます。「日本人は礼儀正しい」「真面目」「穏やか」と言われることがよくあります。また、アニメ文化も広く浸透しており、テレビではアラビア語版のドラえもんが放映されていたり、私の家から徒歩5分の場所にはONE PIECEの大きな壁画があります。

しかしその一方で、日本・中国・韓国を同じ国だと思っている人がいたり、日本人は中国語や韓国語を話せると思われていることもあります。アラビア語の国ごとの方言の違いのようなものだと考えている人もいます。そのため、チュニジアでの生活の中で関わる方々には、日本のことを少しでも知っていただけたら良いなと思います。

3. 配属先について

配属先は、首都チュニスから南へ約60Kmに位置するナブール県ハマメット市にある、ハマメット青少年の家(Complexe de jeunesses Hammamet)です。ハマメットは、地中海沿岸に位置するチュニジア屈指のリゾート地として知られ、美しい砂浜と青い海が広がる人気の観光都市です。年間を通して温暖な気候に恵まれ、首都チュニスからのアクセスも良いことから、国内外から多くの観光客が訪れています。

市内には高級ホテルやリゾート施設が立ち並び、観光産業が地域経済の中心となっています。また、旧市街(メディナ)には城塞や白壁の建物が残り、地中海の景観とチュニジアの伝統文化が調和した街並みを楽しむことができます。

このような観光都市であるハマメットにおいて、地域の若者が集い、交流し、学ぶ場として重要な役割を担っ



配属先前の通り

ているのが私の配属先である「ハマメット青少年の家」です。チュニジアには、健全な青少年を育成する目的で、青少年の家(Maison des Jeunes または Complexe de jeunes)という施設が多く、多くの街に存在します。私の配属先もその一つで、観光都市ということもあり宿泊施設も併設され、夏では現地の子供達と観光客で賑わっています。

青少年の家には数名の指導員が在籍しており、それぞれが自身の専門分野やスキルを活かしたクラブ活動を運営しています。青少年は毎年、登録料を支払うことでこれらのクラブに参加することができ、放課後や休日を利用して活動を行っています。

日本では、放課後に学校内で部活動に参加する生徒が多い一方で、チュニジアの学校における部活動は主にスポーツ系に限られており、その種類も多くありません。そのため、放課後に継続的なクラブ活動に参加する生徒は比較的少ないのが現状です。

こうした背景から、青少年の家は学校外での重要な学びと交流の場となっています。生徒の興味や関心に応じた多様なクラブ活動を提供することで、コミュニケーション能力や思考力、協調性などを育む役割を担っています。

4. 私の活動について

現在、私は主に日本クラブの指導員として、日本語や日本文化の指導を行っています。配属当初は、これに加えて写真・映像クラブのサポートにも携わる予定でしたが、施設の工事や指導員不足などの影響により、現在は当該クラブ自体が運営されていない状況です。また、言語面での課題もあり、高価な機材を扱う写真・映像クラブを私が中心となって運営していくことは難しいのが現状です。そのため、思うように活動を進められないもどかしさを感じる場面もあります。



フォトワークショップの様子

その一方で、今の環境の中で自分にできることを模索し、不定期ではありますが、自前のカメラで写真のワークショップを開催するなど、可能な形で活動に関わっています。日本クラブには、12歳から26歳までの青少年が所属しています。活動内容は、生徒の年齢や興味・関心に応じて柔軟に工夫しており、曜日ごとに年齢別のクラスを設けたり、日本の映画を鑑賞したりしながら運営しています。また、日本文化を紹介するイベントも開催しています。イベントに向けては、所属生徒と共にダンスや劇などの催し物を準備し、当日の各ブースの運営も生徒と協力して行っています。こうした取り組みを通じて、青少年が自ら発表する機会を設けるとともに、実際に日本文化に触れ、体験できる場を創出しています。



卓球アフリカカップ開会式

そのほかの活動として、ダンスクラブとともに、チュニジアの伝統ダンスの練習にも参加し、地域のイベントなどで披露しています。昨年は幸運にも、チュニジアで開催された

ITTF 卓球アフリカカップの開会式において、ダンスを披露するという貴重な機会をいただきました。今後も様々な指導員と連携し、活動の幅を広げていきたいと考えています。

5. 現地の青少年との交流を通して

ありがたいことに、配属先の青少年から遊びに誘われたり、家に招待してもらったりする機会が多くあります。彼らとの交流を通して、私はボランティアという身ではありますが、さまざまな面で与えられてばかりだと感じています。彼らが街へ遊びに連れ出してくれることで、観光ではなかなか知ることのできない現地の生活や価値観に触れる機会を数多く得ています。日常的に利用するカフェやショップ、若者同士の過ごし方などを共に体験する中で、チュニジアの若者文化を身近に感じることができています。また、家庭に招待してもらうことで、食事や生活習慣、家族との関わり方など、現地の文化をより深く体験することができています。温かく迎え入れてくれる家族の姿からは、家族の絆を大切にしているチュニジアの文化を肌で感じています。



現地の青少年とビリヤード

日常生活の中では、体調を気遣って声をかけてくれたり、危険な場所や時間帯について教えてくれたり、常に私のことを心配してくれる場面が多くあります。暗くなると家の近くまで送ってくれたり、ご飯のお裾分けをしてくれたり、街中で私が心無い言葉をかけられると一緒になって怒ってくれることもあります。日々の生活についても、「もっとちゃんとご飯を食べる」「もっと外に出てリフレッシュした方がいい」などと、時には叱られることもあります。

こうした一つ一つの関わりを通して、私は支援する立場でありながら、むしろ多くの学びや気づきを与えられていると感じています。彼らの行動を見ていると、これまで以上に家族を大切にしよう、困っている人がいれば手を差し伸べよう、友人のことをもっと気にかけてよう、これからの自分の在り方について深く考えさせられます。



生徒との日常の一コマ

仮に私が彼らの立場だったとして、果たして同じような行動を取れるだろうかと自問することがあります。日本での生活は、良くも悪くも他人に対して無干渉になりがちだと感じます。しかし、ここで出会った彼らの人柄や他者への関わり方を見ていると、良い意味で「お節介」だと感じます。そんな彼らと触れ合う中で、日本ではあまり経験したことのない、心が温かくなる感覚を日々味わっています。

残りの任期で彼らに自分の活動を通して少しでも恩返ししていきたいと思っています。

最後に

赴任当初は、要請にあった活動がなかなか始まらず、ここで自分が活動することに意味があるのだろうか、彼らにどんな価値を与えられるだろうか、とよく悩んでいました。しかし今では、どのような活動を行おうとも、私がここにいる意味は確かにあると自信を持って言えます。

私のクラブには、将来日本に住みたい子、日本のカルチャーが好きな子、日本語を勉強したい子、日本には特に興味がないけれどそのグループが好きな子など、さまざまな生徒が所属しています。

その中には、学校で友達が少なかったり、過去にいじめを経験した生徒もいます。しかし、そうした彼らが私のクラブで出会い、友達になっていく姿や楽しそうに活動している姿を見ると、私がここにいたからこそ彼らは会うことができ、友達の輪を広げることができたのだと実感します。

この2年間の任期で、私が彼らに与える影響は微力なものかもしれませんが、少しでも私関わった青少年たちの将来がより良い方向に向かうことを心から願っています。そして、そのために、残りの任期も悔いを残さぬよう、全力で活動に取り組んでいきたいと思えます。(了)



配属先での日本イベント

<協会日誌>

2026年2月15日～3月14日の実施行事

2月17日(火) 2025年度 第3回 アフリカサロン

「アフリカ協会 特別研究員 鈴木優梨子氏を迎えて」

時間：18:00～20:30

場所：外務精励会 大手町倶楽部

東京都千代田区大手町 1-8-1 KDDI 大手町ビル 2階

会費：1000円

概要：JICA 専門家および日本大使館職員としてタンザニアに10年あまり滞在され、その後外務省職員として豊富な経験をされた鈴木特別研究員に、「タンザニア社会に近づいてみて」というテーマで、お話しして頂き、会員の皆様と懇談して頂きました。1964年、前の東京五輪の際に、選手村で公式通訳をされ、タンザニアチームとのやりとりから、スワヒリ語とアフリカの歴史への興味、そしてタンザニアの社会に入っていく人生が始まりました……。多彩な人との交流や貴重な経験に彩られた人生をたっぷり伺い、参加された皆様にとって、あつという間に過ぎた時間だったと思います。(参加者:14名)

2月24日(火) 2025年度第8回 「大使を囲む懇談会」

時間：14:00-15:30

場所：国際文化会館 別館1階 セミナーD室

ご出席の大使：中田 昌宏(なかた まさひろ) 駐モロッコ大使

中止となりました。 => 信任状捧呈式のため、急遽、中田大使がモロッコに戻られたことから、中止となりました。次回一時ご帰国の際にご登場をお願いすることと致しますので、お待ちください。

3月6日(金) 2025年度第9回 「大使を囲む懇談会」

時間：14:00-15:30

場所：国際文化会館 西館4階 404号室

ご出席の大使：佐々山 拓也(ささやま たくや) 駐ウガンダ大使

概要：2024年2月に駐ウガンダ大使としてご赴任された佐々山大使に最新のウガンダの政治・経済状況や、ビジネス関連のトピックスなどを伺い、質疑応答を行いました。特に本年1月に実施された大統領選挙の実情と結果についてはの臨場感あふれるご説明がありました。また、ODA案件の状況と今後の見通しについて、「カンパラ首都圏都市交通マスタープラン」が策定され、今後も大型インフラ案件が目白押しとの説明に、参加者からも興味ある点について質問が出され、大使より丁寧にご回答頂きました。(会場参加19名、オンライン参加8名)

今後の予定 (3月15日～)

3月17日(火) 第15回「在京アフリカ大使との懇談会」(ガーナ臨時代理大使)

時間：14:30～16:00

場所：国際文化会館 別館1階 セミナーD室

ご出席者：在京ガーナ大使館 フランシス タラムス ドー臨時代理大使(次席大使)

アイザック ヤンクソン 公使(貿易・投資担当)

クリスファー ガバ 公使(ディアスポラ・教育・文化担当)

概要：在京アフリカ大使との懇談をして頂くこの「懇談会」シリーズですが、今回はガーナ大使館にお願いしていたところ、この期間はアパルー大使が不在とのことで、ドー臨時代理大使にご登場頂くこととなりました。貿易・投資、およびディアスポラ・教育・文化担当の公使も参加して頂けるとのことで、奮ってご参加下さい。

3月26日(木)「アフリカ開発銀行アジア代表事務所 河西所長との懇談会」

時間：14:00 - 15:30

場所：国際文化会館 別館1階 セミナーD室

ご出席者：河西 修(かわにし おさむ) アフリカ開発銀行アジア代表事務所 所長

概要：アフリカ開発銀行のアジアにおける代表事務所の河西所長にご登場頂きます。

アフリカ開発銀行は、昨年9月1日に、シディ・ウルド・タハ新総裁(モーリタニア出身)が就任され、アデシナ前総裁を引き継ぎ、業務を開始しました。今回、河西所長からは、タハ新総裁について、考え方や取り組み方針、方向性や問題意識、日本との関係など、お話しして頂きます。

4月2日(木) 文化・社会委員会第7回「アフリカの文化と芸術を知る」シリーズ

オンライン講座 (Zoom)

時間：14:00～15:30

講師：杉谷健一郎(すぎや けんいちろう) コンサルタント

テーマ：「南アフリカとラグビー～アパルトヘイトの象徴であったラグビーが、いかに人種共生のツールとなったのか～」

概要：「ラグビーと南アフリカ～ワールドカップ王者のたどった光と影～」などの著書がある講師より、ラグビーがいかにアパルトヘイトという人種隔離政策のあった南アフリカで、人種共生を推し進める手段として称賛を浴びるようになったか、その数奇な歴史、とりわけ1995年、白人から非白人の政権へ移行した直後に自国開催されたワールドカップで数々の社会的緊張や問題の中から優勝を勝ち取ったその過程など、お話しして頂きます。

4月7日(火) 2026年度第1回「大使を囲む懇談会」

時間：14:00-15:30

場所：国際文化会館 西館4階 404号室

ご出席の大使：大河内 昭博(おおこうち あきひろ) 駐ジブチ大使

概要：昨年11月に駐ジブチ大使としてご赴任された大河内大使に最新のジブチの政治・経済・社会状況や、ビジネス関連のトピックスなどを伺い、質疑応答と懇談をし

て頂きます。2011年に紅海やソマリア沖（アデン湾）の海賊対策を主な任務として世界唯一の自衛隊の海外拠点が設置されて、小国でありながら日本との関係も密接となり、ODA 供与も増え、注目されるようになりました。ビジネス拡大の可能性や機会など、最新の状況を伺います。（近々ご案内を発信致します。）

4月17日（金）2026年度第2回「大使を囲む懇談会」

時間：14:00 - 15:30

場所：国際文化会館 別館1階 セミナーD室

ご出席者：村田 優久夫（むらた ゆくお）駐マリ大使

概要：2024年にマリに赴任され、昨年6月の「大使を囲む懇談会」に続き、これが2度目のご参加となります。昨年は、2021年5月に武力政変で政権に就いたゴイタ大統領の統治が継続し、北部・中部で治安悪化状況も継続しているが、サヘル諸国同盟（AES）内の連携が強まり、「新しいマリ」建設への動きもある、といったお話を伺いましたが、今回は、最新状況を伺います。（近々ご案内を発信致します。）

5月26日（火）第16回「在京アフリカ大使との懇談会」（ケニア大使）

時間：14:00～15:30

場所：国際文化会館 西館4階404号室

ご出席者：モイ・レモシラ大使

概要：上記ガーナに続き、新年度最初の在京大使との懇談会に、在京ケニア大使にお話を伺うことが内定致しました。（4月以降に、ご案内を発信致します。）